

2017年度 日本インターンシップ学会東日本支部 第2回研究会報告

報告者 松坂暢浩（東日本支部副支部長）

12月17日（日）、岩手県立大学アイーナキャンパス（主催校 岩手県立大学、運営協力 東北インターンシップ推進コミュニティ）にて研究会を開催いたしました。本研究会での地方圏での開催は、山形県、新潟県に続き岩手県は3回目になります。

開催にあたり、古閑博美支部長と開催校の岩手県立大学の高瀬和実先生からご挨拶をいただき、その後、講演およびシンポジウム、自由研究発表の流れで行われました。

まず岩手県立大学キャリアセンターインターンシップ推進マネージャーの高橋郁磨様より、「東北インターンシップ推進コミュニティにこれまでの取り組みについて」と題してご講演をいただきました。2014年7月に広域の大学と行政・支援団体と連携した形で発足した推進コミュニティの取り組み成果と今後の課題、また新たな取り組みとしてスタートしている地域定着を目的とした自治体主導型「地域志向型インターンシップ」についてのご紹介がありました。特に、地方自治体の委嘱を受け、地域で生活し、各種の地域協力活動を行っている地域おこし協力隊がコーディネーターを行うといった地方圏ならではの取り組みになっている点が印象的でした。

つぎに「地方圏の大学連携事例からインターンシップの在り方を考える」をテーマとして、岩手県立大学の高瀬和実先生をコーディネーターにシンポジウムを開催しました。若者の人口減少に歯止めをかけたい地方圏において、インターンシップを通じた人材の地方定着および還流が注目されています。今回、インターンシップを現場でコーディネートをしている山形大学の松坂、一般社団法人ワカツクの渡辺一馬代表、岩手県立大学の高橋郁磨様より話題を提供いただき、それらを踏まえてパネルディスカッションを実施しました。キャリア教育、採用活動、事業化寄進・雇用環境整備の視点からインターンシップに対する様々な意見が会場から出され、活気のある討論となりました。

そして自由研究発表は、嘉悦大学経営経済学部教授の村上正夫会員が「インターンシップにおけるメンターの役割～インターンシップ参加学生の調査結果から～」と題して発表を行いました。嘉悦大学のインターンシップ社会人メンター制度が、学生にどのような影響を与えているかについてアンケート調査結果を踏まえてご報告がありました。

最後に研究会の総括を青森中央短期大学の教授の宮田篤会員が述べ、折戸晴雄学会会長からご挨拶をいただき、無事研究会を終えることができました。

